

教 科 工業(機械)

科目	産業財産権	(選択)	授業時数	2 単位
			履修学年	3 学年

目 標	知的財産権や産業財産の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における知的財産と産業技術における産業財産権の意義や役割を理解させるとともに、産業の発展を図る創造能力や活用する能力と態度を育てる。
-----	--

●学習内容

1 学期	2 0 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 0 時間
知的財産とは	10	第 1 章 特許	15	アイデアの創造	5
第 2 章 意匠	5	1. 特許って何			
1. デザインって何？デザインの意義		2. 特許情報の調査		第 1 章特許	15
2. 意匠登録制度とデザイン		アイデアの創造	15	3. 自分の発明を特許出願するには	
第 3 章 商標				4. 出願から特許取得までの流れ	
1. 商標って何？	5			5. 外国で特許を取るためには	
2. 商標はどうやって保護されるの？商標登録制度について				6. 実用新案制度	

教材
教科書:「産業財産権標準テキスト(総合編)」 発明推進協会 自主作成教材(プリント)

授業の進め方
知的財産権の概要から、産業財産権である特許権・実用新案権・商標権・意匠権を中心にしくみや制度の内容を理解・考察し、実践的・体験的な学習活動を行う。また、発想法、アイデア創出から発明を発掘するポイントを見出し、特許への出願過程を学ぶ。できるだけ資料や動画などを通して、視覚的に理解できるようにすすめる。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
活用できる (できる)	知的財産を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、出願方法などの基本的な実務能力や作品製作を創意工夫する力を身に付け、知的創造活動について関連する知識・技術を身に付け説明できる。	知的創造活動において、知的創造サイクルはなぜ重要であるかを考え、課題や問題を適切に判断し創意工夫する能力を身に付け、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付け活用できる。	知的創造活動の成果がどのように保護・活用しているのかに関心を示し、その制度に関する基礎的な知識を身に付け、豊かな社会を実現するため自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
習得する (わかる)	知的財産を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、出願方法などの基本的な実務能力や作品製作を創意工夫する力を身に付け、知的創造活動について理解している。	知的創造活動において、知的創造サイクルはなぜ重要であるかを考え、課題や問題を適切に判断し創意工夫する能力を身に付け、技術者として解決する力を身に付けている。	知的創造活動の成果がどのように保護・活用しているのかに関心を示し、その制度に関する基礎的な知識を身に付け、豊かな社会を実現するため協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	定期テスト・課題・ノート・授業観察	定期テスト・課題・ノート・授業観察	授業に取り組む姿勢や意欲(課題などの自主的な取組も含む)

単元別 評価規準

知的財産とは

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	産業財産権、著作権、育成者権などに関する基礎的な知識について 原理及び機能を踏まえて理解 しているとともに、関連する技術を身に付け 説明 できる	産業財産権、著作権、育成者権などの意義や基本的特性、基本的な情報収集のための 解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用 できる。	知的財産権の意義や基本的特性について興味・関心を示し、自らすすんで把握しようとするなど 主体的 かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	産業財産権、著作権、育成者権などに関する基礎的な知識について関連する技術を身に付けている。	産業財産権、著作権、育成者権などの意義や基本的特性、基本的な情報収集のための説明できる。	知的財産権の意義や基本的特性について興味・関心を示し、自らすすんで把握しようとするなど協働的に取り組んでいる。

第2章 意匠

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	意匠制度の目的、枠組み、保護対象について基礎的な知識その重要性について 原理及び機能を踏まえて理解 しているとともに、関連する技術を身に付け 説明 できる	意匠がなぜ大切であるかを考え課題や問題を適切に判断するとともに、創作の症例が専業の発展に寄与することについて 解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用 できる。	意匠に関して興味・関心を示し、自ら進んで把握しようとするなど 主体的 かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	意匠制度の目的、枠組み、保護対象について基礎的な知識その重要性について関連する技術を身に付けている。	意匠がなぜ大切であるかを考え課題や問題を適切に判断するとともに、創作の症例が専業の発展に寄与することについて説明できる。	意匠に関して興味・関心を示し、自ら進んで把握しようとするなど協働的に取り組んでいる。

第3章 商標

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	商標制度の目的、枠組み、保護対象について基礎的な知識その重要性について 原理及び機能を踏まえて理解 しているとともに、関連する技術を身に付け 説明 できる	商標がなぜ大切であるかを考え課題や問題を適切に判断するとともに、創作の症例が専業の発展に寄与することについて 解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用 できる。	商標に関して興味・関心を示し、自ら進んで把握しようとするなど 主体的 かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	商標制度の目的、枠組み、保護対象について基礎的な知識その重要性について関連する技術を身に付けている。	商標がなぜ大切であるかを考え課題や問題を適切に判断するとともに、創作の症例が専業の発展に寄与することについて説明できる。	商標に関して興味・関心を示し、自ら進んで把握しようとするなど協働的に取り組んでいる。

第1章 特許

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	特許制度の目的、枠組み、保護対象について基礎的な知識その重要性について 原理及び機能を踏まえて理解 している	特許がなぜ大切であるかを考え課題や問題を適切に判断するとともに、創作の症例が専業の発展に寄与することにつ	特許意匠に関して興味・関心を示し、自ら進んで把握しようとするなど 主体的 かつ協働的に取り組んでいる。

		ともに、関連する技術を身に付け 説明できる	いて 解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用できる。	
	習得する (わかる)	特許制度の目的、枠組み、保護対象について基礎的な知識その重要性について関連する技術を身に付けている。	特許がなぜ大切であるかを考え課題や問題を適切に判断するとともに、創作の症例が専門の発展に寄与することについて説明できる。	特許に関して興味・関心を示し、自ら進んで把握しようとするなど協働的に取り組んでいる。

アイデアの創造

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	必要な産業財産権に関する情報を検索するなど技術を身に付け、方式審査など出願の手続きや流れの知識があり、どうすれば産業財産権を取得できるのかについて 原理及び機能を踏まえて理解 しているとともに、関連する技術を身に付け 説明できる	権利が得られるように、発明や考案の内容について深く考えるとともに、自分の発想を適切に評価するなど 解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用できる。	産業財産権を取得することを目指し、研究や実験及び市場調査に熱心に取り組み、出願まで自分で実施しようとするなど 主体的 かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	必要な産業財産権に関する情報を検索するなど技術を身に付け、方式審査など出願の手続きや流れの知識があり、どうすれば産業財産権を取得できるのかについて関連する技術を身に付けている。	権利が得られるように、発明や考案の内容について深く考えるとともに、自分の発想を適切に評価するなど説明できる。	産業財産権を取得することを目指し、研究や実験及び市場調査に熱心に取り組み、出願まで自分で実施しようとするなど協働的に取り組んでいる。